

4. 本市における2020年度の小・中学校英語教育の取組について

- (1) 2020年にむけての本市の英語教育の具体的な取組について実施計画を聞く
- (2) ALTの配置など特に小・中学校の英語でのコミュニケーション能力の向上についての取組について
- (3) 掃除や給食、体育の時間にALTを配置し、英語が身近にある学校づくりをしてはどうか

【答弁】

4. 本市における2020年度の小・中学校英語教育の取組についての(1)(2)(3)につきましては相関連いたしますので一括してお答えいたします。

2020年度に全面実施となる小学校学習指導要領により、小学校での英語教育は、現在5・6年生で実施している外国語活動を3・4年生で実施することになり、5・6年生では教科としての外国語の授業が始まります。

新学習指導要領への移行期間である現在、本市では小学校での外国語科を円滑に実施できるよう、さまざまな取組を進めているところでございます。具体には、大阪府の加配教員を計画的に活用し、中学校教員が学級担任と共同で授業を行う中で、小学校教員の英語の授業力向上を図ったり、英語の専門性を有する教員が、質の高い授業を専科指導で行ったりすることで、児童の英語によるコミュニケーション意欲を向上させる取組を進めております。

一方、中学校では、「実際に使える英語を身につける」という観点から、新学習指導要領では、「聞く」「話す」「読む」「書く」といった4技能をバランスよく育成することや、英語を使って即興でやりとりできるスピーキング力の育成が求められております。

スピーキング力等、実際に使える英語力を育むためには、「目的」「場面」「状況」が設定された意味のあるやりとりを行うことが重要であるといわれております。そのため、本市では平成17年度より配置してありますネイティブのALTにつきましても、昨年度から配置人数の増加を図ったところでございます。

議員ご提案の、掃除や給食、体育の時間等にもALTを配置し、身近に英語でコミュニケーションがとれる環境をつくることは、使える英語力を身につける上で非常に有益であると捉えております。現在、休み時間や掃除の時間、行事などの活動をとおして児童生徒がALTとコミュニケーションを図り、英語を積極的に活用している事例がございます。しかしながら、昨年度にALTを増員したところでもあり、全ての学校でALTを日常的に配置することにつきましては、先進市の取組等も参考にしながら、研究してまいりたいと考えております。

本市教育委員会といたしましては、2020年度からの小・中学校における英語教育の充実に向け、引き続き各校での授業改善を推進するとともに、ALTの効果的な活用方法についても研究を進めてまいります。